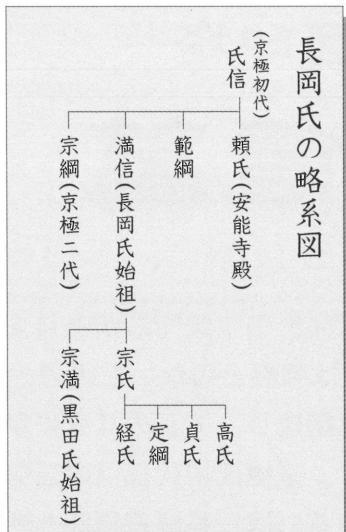


市指定 石造宝篋印塔 伝京極満信墓

長岡の阿弥陀堂の前に、京極満信のものと伝えられる、ほぼ完形の宝篋印塔があります。花崗岩製で、総高157.5cm、塔身四面の梵字や、基壇の格狭間の文様は判然としないものの、鎌倉時代中期の建立と考えられます。阿弥陀堂には、京極満信がこの地に創建し、天正の兵火にかかり焼失したとされる東福寺の本尊阿弥陀如来を安置しています。満信は、京極氏初代氏信の三男で、坂田郡長岡荘を分領して、長岡に居住したことから、佐々木長岡氏あるいは、長岡京極氏と呼ばれました。『吾妻鏡』正嘉2年(1258)の条にその名がみえます。弘安2年(1279)34歳で没し、長岡に葬られて、法名を「東福寺殿」と号しました。満信の長子を三郎左衛門尉宗氏、次子は四郎左衛門尉宗満といい、二人の息子が長岡荘を分割し、宗氏が北半分を相続して長岡氏を称し、宗満は南半分を領して黒田氏を名のりました。

長岡の西に位置する西福寺には、一部を欠くものの、京極満信墓と同時代とされる宝篋印塔が3基あります。伝承はのこされていませんが、『改訂近江国坂田郡志』では黒田氏一族の供養塔と推定されています。





京極長岡氏略系図



西福寺宝篋印塔

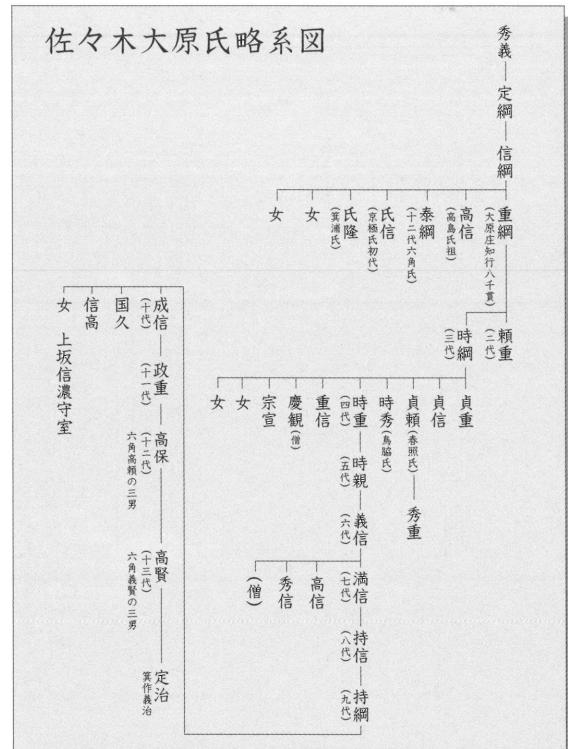


伝大原時綱の墓

市指定 伝大原時綱墓

志賀谷の西山の麓にある光明院境内の裏手の墓地内にある花崗岩製の総高171cmの宝篋印塔は、大原氏第3代の時綱の墓といわれています。笠と相輪が合わず、塔身も小ぶりであることから、完形品ではありません。銘文等も判然としませんが、基壇の格狭間などの形式から、鎌倉時代中期のものとされています。（見学の可否は要連絡）

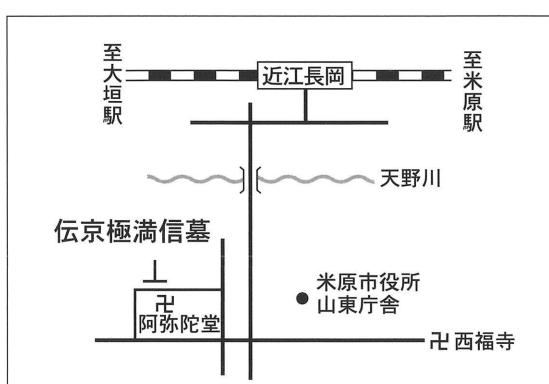
佐々木大原氏略系図



大原氏略系図



大原一族の墓(大原氏館跡)



市指定 伝京極満信の墓

■ 所在地 滋賀県米原市長岡

■ アクセス JR東海道線近江長岡駅下車。徒歩約10分。

米原市教育委員会

〒521-0242 滋賀県米原市長岡1050-1
TEL.0749-55-8020 FAX.0749-55-4556

平成23年度 埋蔵文化財活用事業